

第5回 第3分科会会議録（概要）		場 所	新宿区役所 第一分庁舎 職員研修室
日 時	平成17年8月25日 午後6時30分～午後9時00分	記録者	【学生補助員】 蛇石、宇野沢
		責任者	区事務局（黒澤）
会議出席者：37名 傍聴者2名 （区民委員：25名 学識委員：2名 区職員：7名 コンサル：3名）			
■配布資料 <ul style="list-style-type: none"> ● 第3分科会（第5回）次第 ● 災害に強い安全・安心なまちづくりについて（資料1） ● 防災に関してとった措置の概況 平成17年度の防災に関する計画 要旨 ● 第5回地域危険度測定調査結果 ● 首都直下型地震想定される被害とその対策 ● 国土交通省の首都直下地震対策について ● まち歩きをしよう（出欠予定表）（資料2） ● 第3分科会（第4回）議事録（概要） ● 第3分科会（第6回）の開催場所について ● 第3回「新宿まちづくり学」講座のお知らせ ● 震災復興計画（抜粋） ● 災害時要援護者防災行動マニュアル ● 新宿区の防災対策について ● 火災など活動状況表 ● 災害に備えて ● 新宿区避難場所地図 ● 新宿区洪水ハザードマップ 			
■進行内容 <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 災害に強い安全・安心なまちづくり《「減災社会」に向けた取り組み》 3 グループディスカッション 4 発表 5 まち歩きについて 6 連絡事項 			
■会議内容 <p>【発言者】 ●：区民委員、◎：学識委員、○：区職員、▲：コンサル</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 <p>○：あいにく台風の接近ということで、今日は非常に集まりが悪いですけれども、逆に</p>			

人数が少ない分だけ、近くに寄りながらいろいろとお話も深められるのかなとも思いますので、本日もよろしくお願いいたしたいと思います。(配布資料の確認及び説明)

- ◎ : みなさんこんばんは。早稲田の卯月でございます。まず本日の会議に先立ちまして、これまでの第3分科会の会議の進め方に対して、若干のご提案、あるいはお詫びを含めて、少しお話をさせていただきたいと思います。

前回のこの分科会、テーマは「住宅・住環境」だったと思います。このテーマの分科会終了後、参加者の何人かの方から、ご意見・改善のご提案をいただきました。はっきり申し上げますと、会議の進め方に一工夫いるのではないだろうか、ということでございます。具体的に申しますと、3点ほどあるかなと思います。

1つ目は、区職員の方に、この勉強会の冒頭、いつも課題のご説明をしていただいている訳ですが、その職員の方の発表があまり要領を得ていない、というご指摘が1つ。2つ目のご指摘は、それに対応してと言うのでしょうか、全体会をしていましたので、区民の方々の質問が、どうしても利害関係者の話に集約して、そこで職員の方とのやりとりになってしまっている、という点が2点目。それから3点目が、その質問に対して区の方にお答えをいただくチャンスを作ってきた訳ですが、区の職員の方の回答が、言葉がちょっと不適切かもしれませんが守りの姿勢だけで、こういった区民会議の中で、これから新しい創造的な、建設的な提案をしていくのに、必ずしもふさわしい回答ではないのではないか、という大変厳しいご指摘がございました。

私としては、これは何回も今まで申し上げてきた訳ですが、第1ステップとしては、なるべく現状の新宿の課題をみなさんに共通に理解していただきたい、ということで勉強会という学習会をやらせていただいて、第2ステップでみなさんに自由に創造的な提案、研究、調査をしていただきたいということで、勉強会を企画してきた訳です。けれども結果的に申しますと、当初、私が考えていたようにはならなかったということで、大変反省をする部分もありますし、みなさんに申し訳ありませんということ、今日、申し上げなければいけないと思っています。その結果、何人かの方が指摘されているように、参加者が最初は多かったのに、少しずつ減ってきている。このことも、そういった不満が1つあるのではないかと、ということで、それも1つの原因かもしれないと私は考えております。

そこで、本日を含めまして、あと4回、こういった勉強会を予定しております。今日から、この分科会の進め方を少し改善したいと思って、今から改善点についてお話したいと思います。まず始め、区の方にそれぞれのテーマに即してご説明をいただく、これはきちっとやりたいと思います。しかし、「新宿区は今こんなことをやっています」という施策の紹介ではなく、たぶん今日お集まりの方々はみなさん、それなりにかなり本を読み込んできたり、ホームページをご覧になったりして来て

いると思いますので、区の方から紹介していただく内容は、現状の課題と問題点のみに限ってご紹介をしていただく。もちろんそこで課題の意味がよく分からないという方がいらっしゃるかもしれませんが、むしろ課題と問題点を先に明らかにし、その課題・問題点についてぜひ、この分科会のみなさんからご提案いただきたいということを、限られた時間ではありますけれども、明確にお話していただくように、職員の方をお願いをいたしました。今日、そのようになるかどうか、私も若干不安もありますが、みなさんも聞いていただいて、また次のステップに行きたい。

それから2つ目の改善点は、前回までは、なるべく全員で共有しようということでしたので、区の職員の方の発表の後、全体会として、「ご質問はあるでしょうか」という風に私はお伺いしていましたが、結果から見れば、ご質問というより、ご意見を言われる方のほうが多かった。それから、これもはっきり申し上げて、ご発言いただく方が限られてしまった。たくさんの方がいらっしゃるにも関わらず、ごく一部の方だけになってしまって、せっかくこの2時間半の会議にいらっしゃっても、一言も全体会議の中でお話いただけないというような矛盾が起きてしまいましたので、今日からは、この全体での質問というのをとりあえず廃止します。グループの中で、職員の方にご発表いただいた課題・問題点について質問でもよいし、そこではもちろん当然、意見でもよいし提案でもよい。その課題に即して議論していただきたい。その課題だけじゃないだろうと、防災はもっと違う課題があるだろう、という新しい課題をもしご提案される場合は、グループの中で提案していただいて、その後、全体会でそのグループで議論した内容をご発表いただく、という形にしたいと思います。

さらにもう1つ、これは改善というより何回か前から考えていたことですが、議事録の取り方に関しても、厳しいご指摘がありました。もう少し工夫があるのではないか、とか、あるいは企業で議事録を取る場合は、もっともっと明確に、初めて読んだ方でも分かりやすく取っているの、ちょっと第3分科会の議事録は甘いのではないか、というご指摘もございました。この辺はいろいろな考え方があるのですが、ただ、議事録で特に重要なのは、今われわれが考えている議事録の重要な点は、第1ステップの勉強会がどのように行われたかという事以上に、第2ステップの提案とか、あるいは研究、調査、先ほどから申し上げております、そこうまくつながるような議事録の書き方をしようということですので、議論された内容だけの議事録ではなく、そこをもう1つ、もう1段階進めて、かみ砕いて、提案するときにはこの3つぐらい、あるいはこの4つぐらいを、今日の議論からテーマ出しとしてできるのではないかと、われわれ事務局で抽出しようと思っています。そこで、前回までのそういった作業は、今やっておりますので、次回のこの分科会に出すと同時に、今日、各グループで議論していただいた内容を集約し、かつ第2ステップの提案に結びつくようなテーマ出しについても次回までにわれわれ

れの宿題にさせていただいて、これまでの議論のテーマ出しを提案したいと思いません。もちろん、この提案出しについて、またご意見を第2ステップの中でいただく「たたき台」ですから、それがすべてではありませんけれども、そういった形でこれからいくつかの改善を加えたいと思うのです。

さらにもう1つ、最後ですが、これまで時間の制約もありまして、冒頭、早稲田大学の国際会議場でやった時に私が申し上げた、テーマによっては他都市の先進事例とか、あるいはその分野の専門家の方にも少しコメントをいただくような会にしたいと私申し上げましたが、どうしても今までなかなか時間の都合で出来ませんでした。ただ、まち歩きの方が少し集約されつつありますので、限られた時間ではありますけれども、他都市の先進的な事例とか、あるいはこの分野の専門家の方に来ていただいて、ちょっとアドバイスいただくようなことも、これから、今日を除きますとあと3回勉強会ございますので、そのなかで工夫をさせていただきながら、これまでいただいたご意見、ご提案に対して、対応していきたいと思っておりますので、ぜひご協力、ご理解のほどをお願いしたいと思います。さらに、今日進めたり、あるいは次回進める中で、またさらに新たな問題が生じることもありますので、その時には今まで通り、ご提案、ご意見カードに率直なご意見を書いていただき、それを事務局でまた反映できるところは反映したい、という対応をして行きたいと思っておりますので、誠に申し訳ありませんけれども、これからは少し進め方について改善を含めてやりたいと思っておりますので、ぜひご協力のほど、よろしく願いいたします。それでは、長くなって恐縮でした。今日の会議の進め方を窪田先生の方からお願いいたします。

- ◎ : では、今日のテーマは「災害に強い安全・安心なまちづくり」です。最初に、40分ほど新宿区の方から説明をいただきます。「地域・地区」面的な話ですね、それから「建物」、何か災害があった後の「復興」、そしてそれをどうやって進めて行くかという「組織や体制」人やソフトの問題、その4点から課題をあげて説明をいただきたいと思っております。その40分の後、休憩を5分ほど取りまして、今卯月先生から説明がありましたように、グループで討議に入りたいと思っております。討議時間は1時間取っております。その後、グループごと3分ずつの発表をいただきたいと思っております。そして最後残り15分くらいになりますが、そこについてはまち歩きの進め方、もう来週の土曜日から始まりますので、最終確認に近いかと思っておりますが15分ほどやりまして、今日は9時には終わりたいと思っております。では、どうぞよろしくお願いいたします。

2 災害に強い安全・安心なまちづくり《「減災社会」に向けた取り組み》

- : 新宿を、災害に強い街にしていくためには、どのような取り組みが必要か。

【なぜ減災社会なのか】

- ◆ これからはハードだけで問題を解決するのは困難であるため

【今日の話の概要】

- ◆ 現状の取り組みと課題
- ◆ 災害に強いまちにするためには、どういう取り組みが新宿区に必要なのか

【災害（地震）ケーススタディ：首都直下地震の被害想定】

- ◆ 東京湾北部を震源とするM7.3のケース（冬の夕方18時 風速15m/s）
 - ◇ 死者数：約1万1千人
 - ◇ 帰宅困難者：最大約650万人（1都3県常住人口の約2割）
 - ◇ 建物全壊棟数：85万棟
 - ◇ 経済被害：約112兆円（国家予算の約1.4倍）

【減災社会の現実に向けた課題】

- I. 身近な地区・地域を、災害に強い街に…
- II. 住宅を、災害に強い建物に…
- III. 最小限の被害で速やかに復興できる街に…
- IV. 日頃から災害に備え、誰もが助け合える街に…

【I. 身近な地区・地域を、災害に強い街に…】

- ◆ 安全な生活区域（防災生活圏）の整備が基本
- ◆ 木造住宅密集地域

◇ 木造住宅密集地域の解消に向けた課題

- ・ 不燃建築物への建替え促進
- ・ 道路や公園などの公共施設整備
- ・ 敷地内の空地や広場などのオープンスペースの確保
- ・ 課題解決に有効な共同建替え推進

◇ 新宿区の木造住宅密集地域エリア

- ・ 落合地区、西新宿、北新宿地区、早稲田地区、牛込、市谷～四谷地区

◇ 木造住宅密集地区整備促進事業

- ・ 不燃建築物への建替えを促進する → 防災性の向上
- ・ 道路、公園などの公共施設を整備する → 移住環境の改善

◇ 木造住宅密集地区整備促進事業エリア

- ・ 上落合地区、北新宿地区、若葉・須賀町地区

◇ 若葉地区での共同建替え事業実績の例

◆ 市街地再開発

◇ 市街地再開発事業

- ・ 面的に不燃化を促進する → 防災性の向上
- ・ 公共施設やオープンスペースを整備する → 居住環境の改善、賑わいの創出

◇ 市街地再開発事業エリア

- ・ 完了地区：西新宿6丁目中央地区など10地区

- ・事業中地区：西新宿8丁目成子地区など4地区

◇市街地再開発事業の完了事例(西新宿6丁目西第1地区・平成11年竣工)

◇木造住宅密集地域の解消に向けたこれからの取組み

- ・新防火地域の指定：不燃化の促進
- ・地区計画制度の導入：公共施設の整備、オープンスペースの確保、共同建替えの推進

【Ⅱ. 住宅を災害に強い建物に…】

◆建物に耐震性を持たせることが重要

◇死者の8割が建物の崩壊、家具の転倒による圧死(阪神大震災)

◇火災発生、延焼の可能性の増加

◇避難が難しくなる

◆建築物の被害の割合

◇S56年以降(新耐震)の建築物は壊れにくい(阪神大震災、三宮地区のデータ)

◇S56年以前(旧耐震)は6割の建物が倒壊、損傷

◇建物の被害事例(阪神大震災、中越地震)

- ・1階部分が倒壊(柱と基礎の金具の問題の場合も)
- ・2つの地震で同じように倒壊
- ・開口部が広い1階が壊れている

◇昭和56年以降の建築物は耐震基準が強化されている

- ・構造計算規定の強化(S56)
- ・木造建築物の規定強化(H12) [耐震壁の配置、継手・仕口の使用等]
- ・中間検査制度の導入(H12)

◆区民の耐震化の取組みを支援

◇耐震化に関する助成

- ・新宿区既存木造住宅等の耐震化に関する助成事業
- ・耐震調査・計画に要した費用の一部を助成(上限15万円)

◇耐震化に関する普及・啓発

- ・危険の調査・区民の皆さんへのお知らせ：職員による予備診断の実施
- ・耐震化の知識の普及・専門家の育成：耐震診断技術講習会の実施
- ・建築なんでも相談会の実施

◆耐震化への課題

◇耐震補強の金額

◇区民の意識

- ・地震が来るとは限らない
- ・長年住んだ家を建て替えたくない

【Ⅲ. 最小限の被害で速やかに復興できる街に…】

◆都市復興の流れ

- ①一日も早い復興・地域復興協議会の結成
 - ・地域復興協議会の結成（生活復興）
 - ②地域づくりへの合意形成を進める
 - ・時限的市街地の形成
 - ・地域づくりの協議会の本格化・合意形成・参加（仮設住宅、仮設店舗）
 - ③地域と行政の協働と連携による復興
 - ・本格復興の展開
- ①～③⇒地域力を高めて、地域活動や将来のまちづくりにつなげる

◆都市復興までの流れ

- ①応急対応：避難所の開設
- ②復旧：ライフラインの復旧、仮設住宅・仮設店舗
- ③復興：復興まちづくり 都市復興・生活復興

◆都市復興の時間軸の流れ

- ①地震発生
- ②発生直後：被害状況の調査と復興に取り組む基本的な体制を確立。
- ③一週間：安全で環境のよい復興まちづくりを実現するため必要な地域に建築制限をかける。（～二ヶ月）
- ④一ヶ月：東京都が復興の基本的な考え方や計画など広域的な復興方針をまとめる。
- ⑤二ヶ月：区が広域的な復興方針をもとに復興計画を作成する。
- ⑥六ヶ月：復興事業などに着手し建物の再建が開始される。

◆阪神・淡路大震災の事例による反省

- ◇行政のみの計画では復興が遅れてしまう地区があった。
- ◇行政と区民が協働して復興まちづくり計画を検討していくことが大切である。
- ◇都市MPは、復興においても将来の姿として非常に重要な役割を果たす。

【IV. 日頃から災害に備えて誰もが助け合える街に…】

◆「備え」に関して

- ◇自助の備えが十分ではない
 - ・住宅・建築物の耐震
 - ・家具の固定（3割以下である）
- ◇共助の備えが十分ではない
 - ・防災区民組織（201組織）の活用
 - ・まだ弱い地域防災力
- ◇公助の備えが十分ではない
 - ・耐震化への支援

◆防災教育・防災訓練

◇地域での防災訓練、防災教育を強化

◇新しい人を防災訓練にどう参加してもらうのか

◆防災ボランティアと防災まちづくり

◇防災アドバイザーを地域の人で

◇地域のネットワークを活かしてまちづくり

◇防災ボランティアの参加

◆新宿区の対策

◇17年度基本方針

- ・安全で快適な文化の薫るまちづくり
- ・災害に強いまちづくりを最優先課題として、三年間で集中的に対策に取り組む
(避難所としての小・中学校)

◇第四次実施計画

- ・安全で快適な文化の薫るまちづくり
- ・重点項目11「災害に強いまちづくり」

◇新宿区防災計画

- ・見直して改訂

◎ : はい。ありがとうございました。少し課題が明確になったかなと思いますが、あの時計で50分まで、7分ほどトイレ休憩にしたいと思います。

3 グループディスカッション

◎ : 私達で区の方の説明を聞いてこんな事を議論して欲しいな、と思ったところを、今、資料として作りました。これに沿って是非議論していただきたいというのが、我々の希望です。もちろん、「こんなんじゃないぞ」という意見があれば構いませんのでご参考にしてください。ちょっと項目だけ読んでみます。

《資料》

減災社会の実現に向けた課題

1 地区・地域

- 防災生活圏という考え方をどう思われますか。
- 木密事業+再開発事業がベストな手法だと考えられますか？
- 木密事業+再開発事業の内容は、どのように改善すればよいか？

2 建物

- 区民の認識をいかに高められるのか？
- どのような支援があれば良いのか？
- 木造の耐震化以外にどのような課題があるのか？

3 復興

- 区民と行政の協働で復興まちづくり計画は、どうすればうまく作成できるのか？

4 人・仕組み

○共助のあり方は、どのように描けるのか？

- ◎ : まず最初、地区・地域に関しては防災生活圏という話がありました。こういう考え方が景観の話をした時に全面的にあれで良いのかというお話があったかと思えますので、どういった辺りに適用していけば良いのか。という話が一つ考えられると思います。2点目として木密事業と再開発事業が進められている今、新しく新防火地域、あるいは地区計画といった事をされようとしています、何かその他に新しいやり方への模索は。といった辺り。3点目として今の主力にしている木密事業や再開発事業、この内容がそのまま良いのか。あるいはどういう風にすれば改善できるのか。といった辺りが地区・地域の課題として挙げられたかと思えます。2点目の建物については区民の意識をいかに高められるのか。どういう風な支援策があればもっと良いのか。それから今日は木造の耐震化の話がメインだったわけですが、他にどのような建物についてどのような耐震化、支援策があれば良いのか。といった新しい課題の発見についてもお願いしたいと思えます。それから3点目、復興でしたけれども主に区民と行政が復興まちづくり計画を作るにあたってどうすればもっと協働がはかどることができるのか。といった事が一つの大きな論点かと思いました。4点目、人と仕組みについては自助、公助、共助という言い方がありましたが、特にこれから共助のあり方が、この区民会議から大きく意見として得られれば良いのかを論点として挙げさせていただきました。必ずしもこれ通りというわけではないのですが、議論をされる時に少し参考にしていただければと思います。では40分まで議論をしていただきまして、その後、各チーム2分ずつ、1分減りましたがよろしくお願ひしたいと思います。
- ◎ : 今日は区の職員もたくさん待機していますので、彼らにもぐるぐる回りながら質問があれば、わかる範囲で答えていただくという体制になっておりますのでご協力のほどよろしくお願ひします。それでは、どうぞ。

(グループでディスカッション 60分)

4 発表

- ◎ : それでは、各グループで発表していただきます。
- : すいません。ここに書いてある通りなのですが、防災生活圏というのは幹線道路で区域割がありますが、もう少し生活に即したきめの細かな生活圏があってその中で細かく見た方が良いのではないかと。木造が色々な所にあって木造の街並みでも良しとする場所があっても良いのではないかと。という意見がありました。それから木造の耐震化以外で、まず重要なことは小中学校の耐震化が本当に進んでいるのか。という声が出ていました。ここは避難場所になりますので木造の耐震をいろいろコンサルタントするよりも自分たちの公共施設をきちんとやって欲しいという話があったら、予算化

されてるんですよね。19年度に終了予定という事で、まだ終わっていないという事がわかりました。それから区民の意識として、マンションの住民や木造の住民が色々集まってくる中で、マンションの新住民はもう別に除外して、木造の人たちだけで昔の戦時中の何とか組を作って防災の意識を高めてやったら良いのではないかと。マンションの住民を期待しても無理じゃないかという意見が出ました。それから復興につきましては、まず復興どころよりも地震対策が出来ていないのに復興のことを考えてもしょうがない。との意見もありましたけど、密集しているところが丸焼けになった時に、そういう復興プランも行政の方で最初から考えていれば、要するに地震だったら、こういう風になるとか、復興したらこうなるとか、両建てで考えれば良いのではないかという話が出ていました。最後に、現実には再開発どうこうという話があったんですが、防災の危険度とかそういう観点でも再開発は必要なんです、実際に再開発に選ばれた地区の人のエゴもいろいろ出てくる、その辺を発展していったらどうかというのと、官民の協働というのは行政も再開発をもっと支援するようなスタンスでやっていただきたいなということです。以上です。

- : このグループでは結構、意見が出ました。まず、住民の既存の自治会とか町会がありますが、まちづくりのNPOの位置づけが低いので、是非、NPOを町会と同じようなレベルまで位置づけて欲しいというのがあります。それで非難などで地域としては今、放置自転車、わりと木造密集地帯で狭隘道路が多いので、そういうところの放置自転車の問題、これは被災時も日常時も含めてあります。あと、この木造密集地の事業が新築や改修、建替えについての事業なので、お金を使わないで既存の住宅に対する事業も位置づけないと政府の向こう10年で災害を半分にするという目標には、今の木造密集地帯では到達できないので既存の事業を同じだけ位置づける必要があるのではないかと考えています。それと区民の意識というところでは、1つの提案として危険度の高い地域から簡易診断を行って、応急判定員の判定というのは地震の後ですけど、その前から赤紙をどんどん張って行って住民の防災意識を高める。あのハザードマップのそもそもの意味は不動産価値が下がっても危険を認識するために出来たものなので、それを住宅レベルでもやるべきだと思います。それと、これは個人的な意見で木造の耐震化以外でブロック塀の撤去をお願いしたいと思います。これは、仙台でも効果が実証されているので、新宿でも是非お願いしたい。それと、今、耐震診断については助成が出ていますが、これは工事についても是非、お願いしたいという意見が出ております。

- : ちょっと補足すると、このまちづくりに対する意識を持つてというのは、意識を持つて、なんですか。「つ」がいない。この意識を持つて主体は、従来の自治会の意識では駄目。やはりテーマを持った、これからこれに取り組むという意欲のある人、そういう人たちが一塊になって、団結してテーマに向かって邁進する。というような従来にはない住民組織、住民だけではなくて、同じようなテーマを持っていれば地域が違う

場合でも連携できるわけで、ネットワークの時代ですから、そういうことで NPO 法人というものがせっかくできたわけで、まさにこれは阪神大震災以降できた制度ですから、これから先に備えるためにも格好の法人なんです。一つの団体で発言権もありますし、行政に対しても対等に物が言えるのが法人でありますから、是非、まちづくりというテーマで少なくとも新宿区で NPO 法人を立ち上げることを提案します。

- : それでは少し早口で喋らせていただきますが、こちらは戸塚地区と落合地区と合同で行いました。まず話に出ましたのは、落合地区の方から落合地区は再開発はいらない、必要ない。やはり住みよい新宿、ふるさとの新宿、そういったことをテーマにしているのなら再開発をして高い建物を建ててもらっては困る。実は緑も多い地域ですのでそういう意見も出ました。戸塚地区の方から、戸塚公園一帯、また百人町もそうなんですが、広域避難場所になっているのに広域避難場所にアパートやマンションがどんどんできて、段々避難場所が狭くなってきている。これはどういうことなのか。という心配もございました。それと大きな問題、地域の問題ですけれども、地域単位で防災会の充実を行って欲しい。今、町会単位で行っていますけれども、さっき話が出ましたマンションの人は切り捨てようというのは可哀相だろうと。わが地域ではアパートの方、マンションの方も新宿区民でございます。そういう人たちも含めた防災会という会を充実して欲しい。その中で出たのが、防災会の中での小学校などの各避難場所。またその充実。避難経路。そういうものも防災会単位できちんと細かいものを作って欲しいということが出ました。その中で防災ハザードマップを是非、作っていただきたい。どこが危険で、どこが危ない。そうすれば自ずと避難経路も分かってきます。それから防災倉庫の充実。中に何が入っているかわからない。備蓄備品が何が入っているかわからない。そういう方が多いので、そういった部分を充実して欲しい。ちょっと意見が出たんですが、この防災倉庫の小学校のいざというときの鍵を誰が持っているのか。小学校の校長先生が持っている。校長先生がどこに住んでいるのか。埼玉県でした。という話も出ましたが、もっと防災に関する鍵をたくさん作って重要な方に配るなどして、いざという時に対応して欲しい。それと広域避難場所の見直しをしていただきたい。大きな線路を越えたり、谷越え、山越えでは非常に危険である。もう少し見直しをしていただきたい。その中で地域という問題で、今、道路に電信柱がたくさんたっていますね。その電信柱が非常に危険でみっともない。これを全部、地中化して、思い切って電信柱を一掃していただきたい。あの上の油が漏れて火災が発生するという問題がありますので是非お願いしたい。今の行政の対応として今の耐震診断の件に関しても、知らない人が多すぎる。もっともっと PR してもらいたいということです。そういうことでした。ありがとうございます。
- : 結論から申しますと結論が出なかったというのが結論なんですが、若松と筆筒、榎の4人だけで論議したのですが、それぞれの主張がぶつかり合うところもあって結論が出なかった。それを体系的に分けてみますとハード面とソフト面があります。ハー

ド面では一律に区画を区切って、そこにこういう防災対策上の建物を建てなさい。というのちょっと受け入れられないだろう。それから木造だからといってすぐに火災に弱いとか地震で倒れるというわけじゃないでしょう。木造があるところにはそれに対応したソフトがあるのでないか。それから区域を分けるにしても細かく何百m単位で分けるのではなく、笹笹地区という感じで、その中でどうい耐火構造があるのか、東京都全体で見れば新宿区の我々が住んでる一部って言うのは本当に一部ですから。全体の防災というものを考えれば、そんなに細かくその中のことを取り上げる必要はないのではないかな。それからソフトの面では持ち家を持つての方やマンションでも自分で持つての方は意識は非常に高いでしょうけど、アパート住まいで1年2年でいなくなる方についてはどうするのか。そういう人へのアプローチは何かやってるのでしょうか。不動産の方に賃貸で入る方に説明を義務付けているのか。色んな資料を渡しているのか。その辺はわからない。そういう話がありました。それから復興についてですが、やはりプランを立てておくことは大事だろう。いつ起こるかはわからないけれども、実際の都市計画としてはこういうプランは作りたいと。それがなかなかお金や意識の問題で進まないけれども、プランは作って何かあった時にはこのプランに基づいて進めていこうという考えは持つべきだろうと。それと人的な復興ですけれども、私は阪神の取り組みは直接見たことはないのですが、成功談、失敗談いろいろ言ってますが、新宿にも210の町会があるので、そういう核を作っておけば右往左往してどこ行ったら良いかわからないって言う人がそういう核に集まって行くと自然とそこでコミュニティが出来上がっていて活動していくという実態があったと記憶しています。最初から上手くいくとは思っていませんが、核がしっかりしていれば、そこに参加する人が段々出ていくのではないのかなと。そういう全域を網羅できないですけども、そういう核を作りこむ。それがここにいる方でしょうし、町内会などもそういうことなんだと思います。そういうことによって最初から成功はしないまでも徐々に良くなっていくのではないかなと。それが共助の考え方ではないかなというのがぐじゃぐじゃと話されました。あとは他の方がいろいろいったのでそういうことも考慮したということをお伝えして報告とさせていただきます。ありがとうございました。

- : 今まで皆さんから出た話の中で、かいつまんで言うと、私達は頭の中、四谷しかないので、広範囲で新宿区の事をあまり考えていなかったというのが前提になります。その中で再開発とは何か、木密事業って何？という話が先に出てきて、その固定概念がみんな各々違っていたのでそれでちょっと時間がかかったりいろんな事がありまして、最終的には色が違うのはどこの地域も違う。顔色が違う、においも違う、肌の色も違うということがあるので、そうすると地域にあった防災の仕方、街並みの形成といったものがあるだろうと。それ考えると今、何で道路を8mにしなきゃならないのか、9尺の道路だって3尺の道路だって良いじゃないか。それでちゃんと防災・安

全が保てれば良いじゃないかという話も出てきました。そしてそれは一つの中で先ほど出てきた何町会か 3000 m²とかちょっと広い、かなり広範囲な広い中でどうやってその中で高層に住みたい人もいるだろうし、小さなまちました木造だらけの地域やそういう地域の所の1ブロックの中で街を形成すれば良いじゃないかと。そうすれば、そこが何町会か集まれば、今までは町会が小さいですから、何をするにも資金はないし、商売をする人もサラリーマンも、それから先ほど言われたアパートやマンションの人は切れとかありますけど、でもその辺の話はまた後でします。それで、その中で防災は道路を広くすることではないということで、だったら大きい範囲で一つの括りの範囲で防災を作れば良いという考え方。それからその建物に関しての不燃化にしなくてはいけないのか、どうなのか、という話があって、それに関して今回の新しい新防火地域を作る。それは準耐火にすれば良い。今、考えてみて地域は高齢化しています。それから継承者、跡継ぎがないですね。ただ、そうすると結局面倒くさいから今まで商売やってるのをやめて高い建物を建てれば息子も帰ってこれるだろう、という感覚でしか思っていない。そうすると段々、住民じゃない人が増えてくる。そういうことも考えていくと建物って言うのは単純に夜間人口を増やすために、息子が来れば融資をいっぱい出してあげるとか、融資制度の充実だとかその辺を考えるのも一つではないだろうか。最後の復興に関しては、やはり先ほど説明のあった全体でやる復興というか訓練、防災訓練、段々なくなってきている。そうすると区とか地域、町会、そういう意味で協働しながらプランを作って、それを今度は町会単位とか地域単位で、真剣さのない訓練しないで本当にピュアで、こんな風にしたら死んじゃうんだというようなそんなレクチャーを受けながら復興の訓練、あるいは講義しなければならない。このようなことをお互いに地域でやる。そうすると別に地域でやる分ですから区から金を出せって言うのはそんなに言わないのではないかと考えられる。そうすると今まで防災用具費で年に町会単位で結構、区にでてきてますよね。その辺の予算をもう少し見直せばそういう費用になってくのではないかという話をしました。それから最終的には人と仕組みということでは、区と地域がいかにしてコミュニケーションする場をいっぱい増やして色々な形でプランしあって、必ず区だけでプランしない。地域の間に入って行ってその中で企画あるいは計画しながら、そうすると地域に帰った時にこういう話がこうだった、ということが確実に伝わる。それでもっとお互いに区の事が理解できる。このように思いました。

- ◎ : ありがとうございます。各チームの発表はもっと長くないといけないということがよくわかりました。
- ◎ : 各グループの議論、発表ありがとうございます。今、5人の方の発表を聞いていて今日は良かったなという印象です。もちろん、限られた時間ではありましたが、ようやくある一つのテーマから出して頂いて、それを論点整理していただくという、少し歯車が回ってきたんじゃないかなと僕自身は、今日感じましたので、ち

よっと一安心いたしました。もし、皆さんよろしければ次回からもこんな形の時間の進め方、もう少し頭が短くても良いかなと本当は思っていますが、こんな形の進め方でやりたいと思います。もしよろしければちょっと拍手をしていただきたいと思います。（拍手）ありがとうございます。色々工夫をして参りますけれども基本的にはこんな感じで、また次回進めて行きたいと思います。誠にありがとうございました。では残された時間ですが、9月3日に第1回のまちあるきが開催されますので、それについてよろしくをお願いします。

5 まち歩き検討（まち歩きをしよう参照）

▲ : ①まち歩きのコースの確認及び修正

②まち歩き日程の確認

1回目：9月3日（土）新宿駅周辺地域 集合場所 都庁北展望室45F

解散場所（仮）区役所第2分庁舎 今検討していますので変更になることもある。

2回目以降：検討結果によるが変更がなければ「まち歩きをしよう」のとおり正式には、3日のまち歩きで確定します。

③まち歩きの注意事項

天候に関して：不安定な天候の場合は企画政策課に連絡

服装に関して：暑さ、身軽な格好

6 連絡事項

○ : 中間のまとめの日程 18年2月19日（日）時間は未定 牛込筆筈町区民ホール